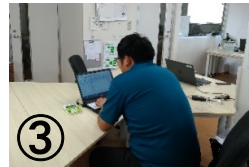


実証課題名：データを活用した農業経営をモデル化し、データに基づき安定的に収益をあげることができる次世代農業人（スマートファーマー）育成の実証

経営概要：73ha（レタス 44ha キヤベツ13ha 非結球レタス16ha）うち実証面積：9ha（レタス5ha、キヤベツ4ha）

導入技術

①計画作成支援、②作業実績/生育状況管理、③受発注管理/需給調整、④農業経営バックオフィス（会計/人事労務）、⑤生産者評価



目標

- 1.レタスの出荷金額1割向上により、実証圃場の農場長の年収を同世代の全産業男性平均年収以上にする
- 2.データに基づいた農業経営を実践する次世代農業人（スマートファーマー）をトップリバーにて10人育成する
- 3.データを活用した農業経営モデルを地域内の10農業経営体へ普及させる

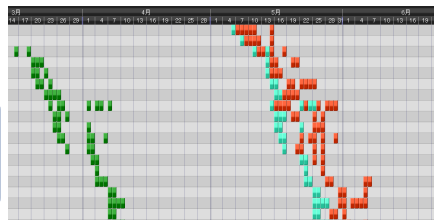
1 初年度の実証成果の概要

- 管理する栽培面積拡大、反当りの経費の改善により、実証圃場の農場長の手当（平成30年実績約367万）を419万円に増加させた。
- 農業経営の財務状況を登録・管理するシステムを11名、栽培状況のデータ登録・管理するためのシステムを13名に導入し、データに基づいた農業経営を実践する生産者を育成した。
- ITシステムの連携による営農データの一元化により、経営の見える化（＝早期の収支把握、問題点の把握等）がすすみ、経営改善が効果的に行えるようになった。

2 導入技術の効果

出荷予測の実用化

- 自動で出荷予測データを取り込み、画面で出荷予測日を確認できるようになり、出荷予測日を考慮した出荷や販売計画の見直しが可能になった。



生育状況の共有

- 生育状況や病害虫情報・結球状態などを登録し、生産者全体で共有することを可能にした。これにより、生育状況確認しながら、対応方法を早急に検討し、手当ができるようになった。

年度	品目	圃場	生育状況
2020/09/20	レタス	御代田地区	定植
2020/09/21	レタス	御代田地区	定植
2020/09/22	レタス	御代田地区	定植
2020/09/23	レタス	御代田地区	定植
2020/09/24	レタス	御代田地区	定植
2020/09/25	レタス	御代田地区	定植
2020/09/26	レタス	御代田地区	定植

受発注業務の効率化

- クラウドで生産者が出荷計画数を入力する機能を実装し、営業担当者が生産者の計画数を確認することで、予め出荷数を調整することが可能になった。
- 生産者も計画と実績を確認しながら出荷業務ができるようになった。また売上の即時見える化によりモチベーションの向上につながった。

#	圃場	品名	許容	規格	月日								
					09/20	09/21	09/22	09/23	09/24	09/25	09/26		
1	結球1	レタス	深3分	12玉	予定	実績	0	0	0	0	0	0	0
					計画	実績	100	100	100	100	100	100	100
					実績	実績	90	87					

バックオフィス業務の効率化

- データ取込と自動仕訳を活用した取引の登録、決算等について、生産者が自ら会計管理が行えるように導入サポート（説明会）を定期的実施し、生産者が日々の経理業務にかかる時間を短縮した。
- また、決算業務にかかる作業時間については会計free導入前に比べて3分の1程度まで短縮された。

3 今後の課題・展望

- 初年度に蓄積した営農・経営状態のデータ分析を行い、出荷計画の精緻化や改善策を作成し、現場で確実に実行することで品質や出荷数を改善し目標を達成させる。
- 登録したデータを活用するための教育を実施することで、システムの利用を定着させ、データに基づいた農業経営が実践されることを目指す。
- 様々なアウトリーチ活動を通じて、地域内を超えた全国の10農業経営体へ普及を目指す。特に、他のコンソーシアムとの連携、他社の栽培管理入力システムとの連携を積極的に推進したい。

問い合わせ先

一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンター（Email : arec@arecplaza.jp）